

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 31 日現在

機関番号：37401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21560679

研究課題名（和文） 明治期日本における洋風建築の地方への普及過程に関する研究
-熊本県を事例として研究課題名（英文） Studies on the prevailing process of western style architecture
in local areas of Japan in Meiji Era: the case of Kumamoto

研究代表者

磯田 桂史 (ISODA KEISHI)

崇城大学・工学部・准教授

研究者番号：50320411

研究成果の概要（和文）：明治初期、洋風建築が地方へ普及していく過程において、熊本県の場合、二つの伝播ルートがあった。長崎からの伝播ルートと東京からのルートである。当初、熊本側は、能動的に長崎ルートによって洋風建築を取り込み、そのため、東京ルートに数年先んじて伝播した。熊本県内に伝播してきた建築は、両ルートとも、明治 10 年代までは擬洋風建築であったが、明治 20 年頃相次いで本格的洋風建築が東京ルートによってもたらされ、それ以降、本格的洋風建築は県内に徐々に普及していった。

研究成果の概要（英文）：There were two routes to introduce western style architecture into modern Kumamoto in early Meiji Era. One is that from Nagasaki at the beginning, and the other from Tokyo later. Until around 20th year of Meiji Era, the “western” style in Kumamoto, whether from Nagasaki or Tokyo, was “pseudo-western”. After that, however, “formal” western style architecture was introduced from Tokyo, and it started to spread out gradually in Kumamoto prefecture.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学、建築史・意匠

キーワード：建築史

1. 研究開始当初の背景

日本の明治期における洋風建築については、すでに多くの文献が出版され、詳しく論じられている。しかし、これらは大所高所から全国を見渡した研究であり、都道府県レベルで洋風建築の普及がどのように進行し、どのような人物がどのような建築に関わったのか等の調査研究は未だ非常に不十分である。また都道府県レベルにおいて東京、大阪

等の大都市や北海道等特別の地域についての研究はあるものの、熊本のような地方県では、建築の洋風化がどのように進行したか等のテーマについては未だ殆ど明らかにされていない状況にある。

2. 研究の目的

明治期の日本において洋風建築が地方でどのように普及していったかその過程を解

明するもの、日本の近代化の全容を知るために重要なことと思われる。上記の背景をふまえ、本研究では、明治期九州における国の行政の中心であった熊本県を一つの事例として、地方において、洋風建築の普及がどのような過程で進展していったかを研究するものである。

3. 研究の方法

(1)資料の収集整理 国の機関関係、県及び市町村関係、教育・医療・工業・鉄道等の各分野、地元新聞等様々な資料を網羅的に収集し、データベース化する。

(2)図面の収集、作成、整理 建物の図面を収集し、写真しかないもの等は図面を作成する。これらを整理する。

(3)建築技術者の資料収集整理 建物と同時に建築技術者の資料も採取し、整理する。

(4)分析、考察、まとめ 収集整理した資料や図面をもとに①機関別、分野別の洋風化の過程、②意匠的特徴、③全国的位置づけ等の観点から洋風化過程を考察する。④建築技術者の資料を経歴としてまとめる。

4. 研究成果

(1)概括

熊本県には、長崎からと東京からと、二つのルートにより洋風建築が伝わってきた。明治10年代までは両方のルートとも擬洋風建築であったが、明治20年頃、東京ルートにより本格的洋風建築がもたらされ、以降、本格的洋風建築が徐々に普及していった。

(2)明治最初期の建築

明治3年、熊本においては藩政改革が行なわれ、医学校兼病院と洋学校がつくられることとなった。医学校兼病院にはオランダ人マンスフェルト、洋学校にはアメリカ人ジェーンズが招かれることとなり、明治4年彼らの住まい等が洋風建築としてつくられた(図1)。そのため、洋風建築のことがわかる長崎の大工が熊本に呼び寄せられた。長崎ルートの始まりである。

初めてつくられた洋風建築はマンスフェルト邸等、現存最古の洋風建築はジェーンズ邸である(図1)。



図1 マンスフェルト邸とジェーンズ邸
(明治4年) (「富重利平作品集」)

(3)陸軍の建築

明治6年、正式に熊本に鎮台がおかれることとなり、同年歩兵第十三連隊の兵舎の建設が始まった。現在の熊本城二の丸公園に図2のような兵舎が建てられた。この兵舎は、仙台に残る歩兵第四連隊兵舎、明治村に残る歩兵第六連隊兵舎と同形状のものと考えられ、それらの標準設計的図面として、防衛庁防衛研究所所蔵の「兵営略表」及びその付図がそれである可能性がある。

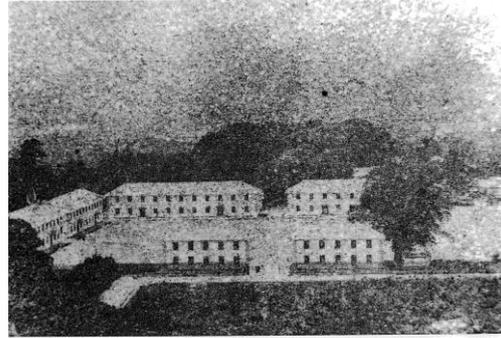


写真49、大天守から見た二の丸の兵舎(1)

図2 歩兵第十三連隊兵舎(部分)(明治6年)
(「古写真に探る 熊本城と城下町」)

(4)郵便電信の建築

明治5年の全国的な郵便制度の始まりと同時に熊本にも郵便役所が設置されたが、この建物が洋風建築である可能性は少ない。明治8年には熊本電信局が開局した。この建物に関する情報は殆どない。明治11年には擬洋風の電信分局の新庁舎、明治23年には本格的洋風建築の郵便電信局(図3)が完成する。これらはいずれも東京ルートの建物である。



図3 熊本郵便電信局(明治23年)
(「富重利平作品集」)

(5)裁判所の建築

明治9年地方裁判所として熊本裁判所が設置され、明治11年庁舎が完成した。この建物は擬洋風建築で、明治10年の大審院庁舎によく似ており東京ルートの建物である。その後明治41年にはれんが造の庁舎に建て替

えられる。

(6) 国の学校建築

明治 22 年には、文部省の山口半六、久留正道の設計により第五高等中学校(図 4)が完成する。これは、本格的洋風建築であり、また県内初のれんが造建築である。明治 41 年から 42 年にかけては、熊本高等工業学校の諸建物が文部省により完成する。



図 4 第五高等中学校(明治 22 年)
(筆者撮影)

(7) 県庁舎

明治 19 年末、工部大学校卒で当時熊本県職員だった船越欽哉の設計により、県庁舎(図 5)が完成する。



図 5 熊本県庁(明治 19 年)
(宮内庁書陵部)

(8) 本格的洋風建築の到来

上記、県庁舎、第五高等中学校、郵便電信局が明治 20 年前後に相次いで完成する。これらの建物は熊本に本格的洋風建築の時代をもたらした。

(9) 県の建築

県は明治初め、当初述べた医学校兼病院、洋学校、両方の教師の住居を建てたが、西南戦争後、明治 11 年には、病院及び医学校、

監獄、県会議場等が建設された。病院及び医学校は長崎ルートの建築と思われ、監獄は東京ルートの建物である。又これらは擬洋風建築であるが、明治 33 年に建築された済々黻校舎は本格的洋風建築と考えられる。



図 6 済々黻(明治 33 年)
(「富重利平作品集」)

(10) 明治 20 年代以降

この時代になると長崎ルートの建築と考えられるものは目立たなくなり、東京ルートの大波に呑まれ、徐々に本格的な洋風化が進んだと考えられる。

(11) 建築関係者等のリスト

洋風建築の普及について考察する際に、建物自体を調べる一方、どのような技術者が関係していたのかを調べる必要がある。そのため、種々の資料において採取できた関係者 164 人及び会社等の組織 12 の経歴をまとめた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

- ① 磯田桂史、明治 6 年の陸軍「兵営略表」及びその付図について、日本建築学会研究報告 九州支部 計画系、査読無、第 51 号、2012 年、pp.705-708
- ② 山崎荘太郎、伊藤重剛、旧陸軍第六師団煉瓦造兵器庫の建築に関する研究、日本建築学会研究報告 九州支部 計画系、査読無、第 51 号、2012 年、pp.697-700
- ③ 伊藤重剛、遠竹孝史、旧熊本地方裁判所煉瓦造庁舎に関する研究、日本建築学会研究報告 九州支部 計画系、査読無、第 51 号、2012 年、pp.701-704
- ④ 高森真実智、伊藤重剛、旧熊本城下町の街路に関する研究(4)新町・古町地区、日本建築学会研究報告 九州支部 計画系、査読無 第 51 号、2012 年、pp.733-736
- ⑤ 磯田桂史、明治 11 年竣工の熊本裁判所庁舎の平面について、日本建築学会学術講演

梗概集、査読無 2011年、pp.373-374

- ⑥ 磯田桂史、明治11年竣工の熊本裁判所庁舎、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無、第50号、2011年、pp.569-572
- ⑦ 青木信吾、伊藤重剛、旧熊本医学専門学校講堂の復元に関する研究、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無、第50号、2011年、pp.565-568
- ⑧ 神近健太郎、伊藤重剛、旧熊本城下町の街路に関する研究(3)京町壺川地区、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無、第50号、2011年、pp.545-548
- ⑨ 磯田桂史、旧鹿児島本線八代鹿児島間の駅舎の平面について、日本建築学会学術講演梗概集、査読無、2010年、pp.517-518
- ⑩ 磯田桂史、JR九州肥薩線における駅舎の平面に関する研究、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無、2010年、pp.497-500
- ⑪ 佐伯春奈、山崎荘太郎、伊藤重剛、旧制玉名中学校本館の建築に関する研究(1)建物の概要、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無 2010年、pp.521-524
- ⑫ 山崎荘太郎、佐伯春奈、伊藤重剛、旧制玉名中学校本館の建築に関する研究(2)復元と考察、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無、2010年、pp.525-528
- ⑬ 吉木美保、伊藤重剛、安井伸顕、旧安田銀行山鹿支店の建築、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無、2010年、pp.529-532
- ⑭ 光山慧、中川正博、伊藤重剛、旧熊本城下町の街路に関する研究(1)江戸期の地図の復元、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無、2010年、pp.565-568
- ⑮ 中川正博、光山慧、伊藤重剛、旧熊本城下町の街路に関する研究(2)街路幅の分析、日本建築学会研究報告九州支部 計画系、査読無 2010年、pp.569-572
- ⑯ 磯田桂史、JR肥薩線における開業当初の駅舎の平面形について、産業考古学、査読有、第134号、2009年、pp.2-9
- ⑰ 磯田桂史、伊藤重剛、熊本高等工業学校本館の復元的研究、日本建築学会計画系論文集、査読有、第74巻、2009年、pp.1439-1448
- ⑱ Keishi Isoda、Westernization of Station Buildings in Kumamoto Prefecture in Japan in the Meiji Era、International Conference on East Asian Architectural Culture Proceedings II、査読有、2009年、pp.365-370
- ⑲ Juko Ito、Locomotive Sheds at Hitoyoshi and Kumamoto Stations: Heritages of Industrial Modernization in Japan、International Conference on East Asian Architectural Culture Proceedings I、査読有、2009年、pp.537-547

6. 研究組織

(1) 研究代表者

磯田 桂史 (ISODA KEISHI)
崇城大学・工学部・准教授
研究者番号：50320411

(2) 研究分担者

伊藤 重剛 (ITO JUKO)
熊本大学・大学院自然科学研究科・教授
研究者番号：50159878